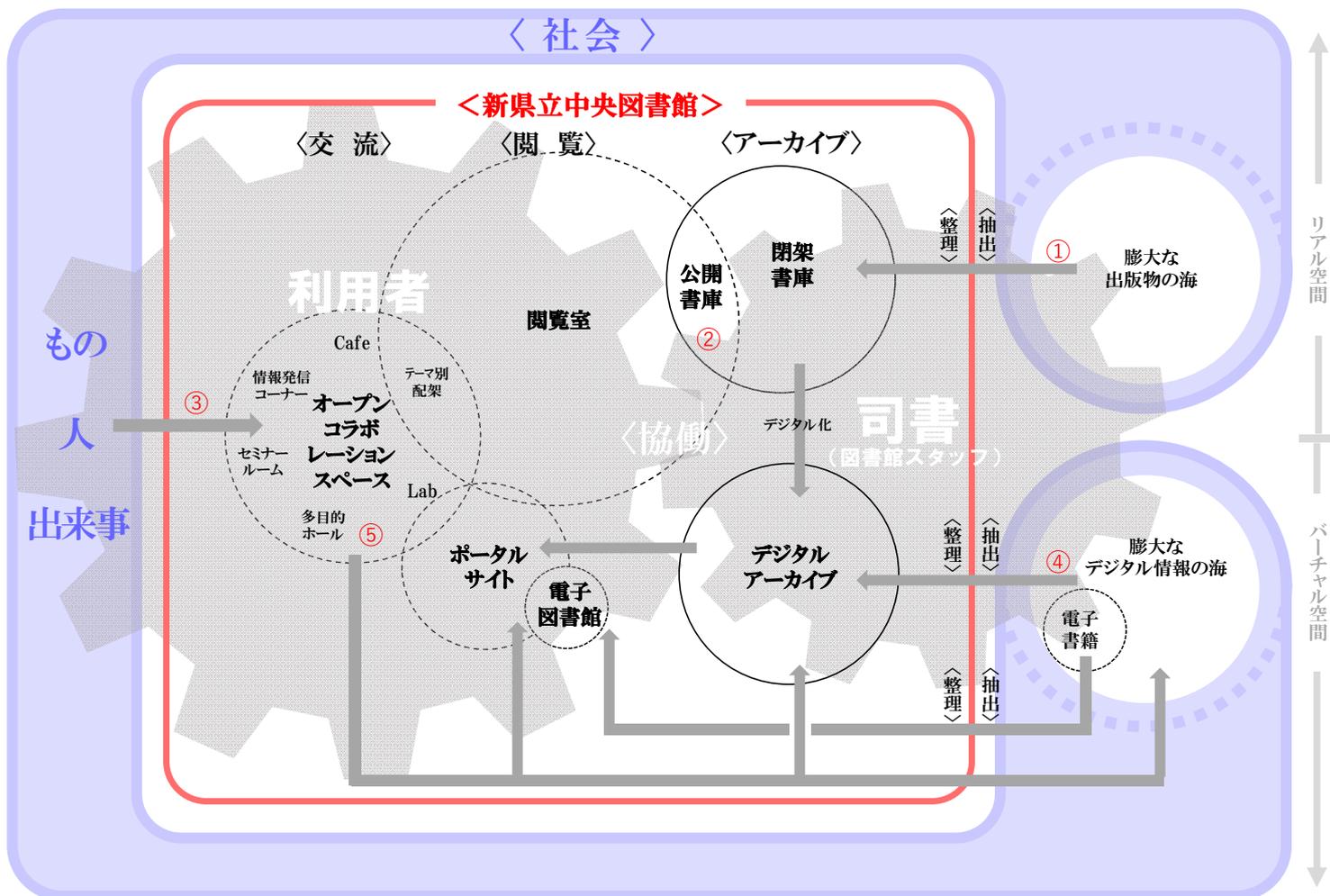


# (参考資料5) 新県立中央図書館の概念図

図書館を動かす二つの歯車～利用者と司書（図書館スタッフ）

← 主な情報等の動き



新静岡県立中央図書館は、社会と新しい形で関わり、情報の起点となる新時代の「情報」館を目指します。

## 《リアル空間の図書館（上半分）》

- ① 社会に存在する膨大な数の出版物などから、図書館の選書方針に則って、系統立った情報に整理して図書館に受け入れるのは、今もこれからも図書館の重要な仕事です。
- ② 受け入れた情報は、閲覧室で利用に供するほか、書庫で後世に伝えます（県立図書館の使命）。また、書庫のうち利用者が直接入室できる公開書庫を設け、「背表紙を見ながら手に取って本を選ぶ醍醐味」、「思いがけない本との出会い」を提供します。
- ③ 社会における様々な「人の活動」や「出来事」、「もの」も図書館が扱うべき重要な「情報」に含まれると考えます。新しい図書館では、オープンコラボレーションスペースを設けるなど、利用者に「人と人との出会いの場」、「多様な情報との出会いの場」、「新たな情報や文化の創造・発信の場」を提供します。

## 《バーチャル空間の図書館（下半分）》

- ④ 現代社会には膨大な量のデジタル情報があふれています。この混沌とした情報の中から、意義のある情報を抽出・整理して提供するのもこれからの図書館の仕事となっていきます。
- ⑤ 静岡県にはまだ見出されていない価値のある事象が多数存在しています。様々な交流スペースの活動により、利用者自らが情報の整理に関わり、それらを新たな情報として整理・発信していきます。それら活動自体もアーカイブされ、共有知として蓄えられます。